静岡・川合遺跡志保田地区

1 所在地　静岡市川合
2 調査期間　一九九五年（平7）一二月～一九九六年九月
3 発掘機関　(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
4 調査担当者　佐野五十三・鈴木良孝・篠宮晋士
5 遺跡の種類　官衙関連遺跡
6 遺跡の年代　奈良～平安時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

川合地区では、弥生時代から近世に至る遺跡面が累積して確認されている。このうち律令時代では、平安時代の安倍郡衙の一部とも推定される遺構群が内荒地区で確認され、墨書土器・腰帯具・銅印などの遺物から奈良～平安時代の官衙の存在が窺える一帯である。

今回の調査は静岡東高等学校の体育館建設に伴い行なわれ、律令期では第三面・第四面の二面が確認された。第三面では、流路・井戸などの遺構のほか祭祀遺構と考えられる土器集中が確認された。年代は奈良時代（八世紀前半～）が中心となる。木簡はこの第三面に伴う包含層より出土した。包含層の遺物は八世紀から九世紀にかけての幅をもつが奈良時代が主体で、遺物には銙帯金具や「大伴マ子若麻呂」「沙弥万」「□檀」「川万呂」「俗月」などの墨書土器もある。また、第四面（奈良時代・八世紀前半～）では、第三面と同様な遺構のほか、柱穴群が検出され、この中の一基から絵馬が出土している。

今回の調査地点は奈良時代の官衙関連の祭祀遺構と考えられる。

（清水・静岡）

8 木簡の釈文・内容

(1)
・□相　（表面）
・　□　（左側面）
・　檜□　（裏面）
・　和　（右側面）

(58)×32×31　065

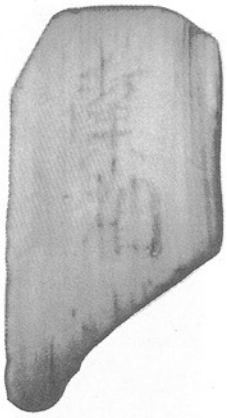
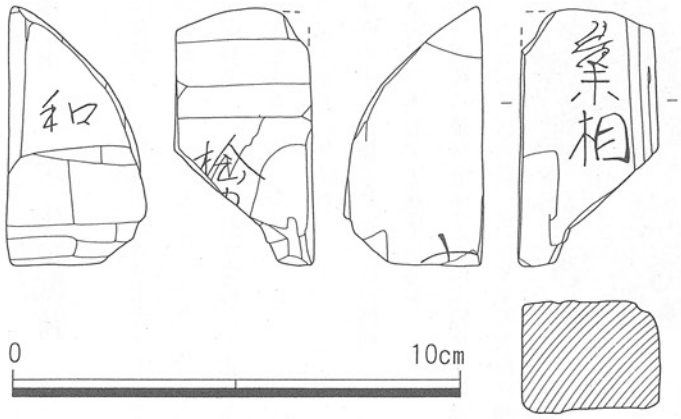


表　面

上下両端とも、後からの加工とみられる切断・削りがあり、本来の大きさや形状用途は不明だが、約三㎝角の角材の四面に墨書がみられる。各面の書き出しが一字ずつ下がって始まっている。

この木簡については国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示を得た。

（鈴木良孝）



木簡研究第一六号

吉田　孝

巻頭言

一九九三年出土の木簡

概要　平城宮跡　平城京跡右京二条三坊四坪　薬師寺旧境内　大安寺旧境内　興福寺旧境内　東大寺　阪原阪戸遺跡　藤原宮跡　藤原京跡右京九条四坊　飛鳥京跡　定林寺北方遺跡　金剛寺遺跡　下茶屋遺跡　長岡京跡(1)　長岡京跡(2)　平安京跡左京三条三坊十三町　大坂城跡(1)　大坂城跡(2)　大坂城下町跡　若江遺跡　西ノ辻遺跡　袴狭遺跡(1)　袴狭遺跡(2)　砂入遺跡　祢布ヶ森遺跡　見蔵岡遺跡　木梨・北浦遺跡　藤江別所遺跡　阿形遺跡　伊勢寺遺跡　御殿・二之宮遺跡　東中館跡　長崎遺跡　八幡前・若宮遺跡　大宮遺跡　三堂遺跡　鴨田遺跡　大戌亥遺跡　杉崎廃寺　元総社寺田遺跡　南A遺跡　安子島城跡　山王遺跡　今塚遺跡　払田柵跡　福井城跡　一乗谷朝倉氏遺跡　戸水大西遺跡　西念・南新保遺跡　八幡林遺跡　宮長竹ヶ鼻遺跡　タテチョウ遺跡　円城寺前遺跡　古市遺跡　郡山城下町遺跡　周防国府跡　初瀬遺跡　船戸遺跡　ヘボノ木遺跡　原の辻遺跡

一九七七年以前出土の木簡（一六）

平城京跡左京一条三坊十五・十六坪　山里純一

沖縄の呪符木簡　奥野義雄

いまに息づく呪符・形代の習俗　今泉隆雄

文書木簡はいつ廃棄されるか　今津勝紀

史料紹介　近世の畳の頭板について　鈴木景二

史料紹介　近世の荷札木簡の一例

彙報

頒価　五五〇〇円　送料六〇〇円